



TITLE:

# らうゝ れー『ミール』學說ノ研究 (一)

AUTHOR(S):

福田, 徳三校閱; 大塚, 金之助

---

CITATION:

福田, 徳三校閱 ...[et al]. りうゝ れー『ミール』學說ノ研究(一). 經濟論叢  
1916, 3(1): 131-135

ISSUE DATE:

1916-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127041>

RIGHT:

大正五年七月一日發行

學大科法學大國帝都京

# 經濟論叢

號一第

卷三第

## 論說

資本ノ概念

資本利子税設定ノ氣運

支那近代ノ戸口ニ就テ(一)

續正貨蓄積論

戸田博士ノ不換紙幣論ヲ讀ミテ

保險本質論(二)

## 雜錄

經濟雜話第四

聯合諸國輸出入禁制ノ我國ニ及ボス影響ニ就テ

對露輸出品代金ノ支拂決濟ニ就テ

經濟戰爭ト我貿易上ノ利害

現前ノ大戰爭ニ就テノ感想

乳兒死亡率ト出生率トノ關係

らぐれー『みる』學說ノ研究(二)

本多利明ノ經濟說ニ關シ本庄學士ノ教ヲ乞フ

米國ニ於ケル移民教育機關

補習教育義務ノ可否

法學博士 河上 肇

法學博士 神戶 正雄

文學博士 內藤虎次郎

法學博士 小川郷太郎

法學博士 福田 德三

法學士 小島昌太郎

法學博士 田島 錦治

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戶 正雄

法學士 河田 嗣郎

法學士 米田庄太郎

文學士 高田 保馬

商學士 大塚金之助

法學博士 福田 德三

法學士 山本美越乃

法學士 財部 靜治

禁

轉

(載)

## ラヴェー『ミール』學說ノ 研究 (二)

大塚金之助  
福田徳三校閲

### 參考書

ラヴェーノ著書ハ主トシテびひやノ獨譯補

**Emile de Laveleye**, Das Ueigenthum, autorisierte deutsche Ausgabe, herausgegeben und vervollständigt von K. Bücher. Leipzig 1879.

ニ據リノ重要ナル箇處ニ就イデハ其ノ原著

**Emile de Laveleye**, De la propriété et de ses formes primitives, 4me ed. Paris 1891.

ヲ照較セリ。

ラヴェーノ露西亞村落團體說ヲ批評セル著書ハ存セス、唯タ

**Fustel de Coulanges**, *Origina of Property in Land*,  
transl. by M. Ashley, 3rd imp. London 1904

中ニ概言之ニ及ケルモノアルノミ。ふゆすてろ・ミ・クーらぐじ  
ゆノ原文ハ

**Fustel de Coulanges**, *Questions Historiques*, revues  
et complétées d'après les notes de l'auteur par Camille  
Jullian. Paris 1895.

ノ第二章ニ收録サレタル

II. La problême des origines de la propriété foncière  
アリ。

露西亞ノ家族制及ヒ村落制ニ關スル參考書トシテ予ノ用ヒタ  
ルモノハ極メテ多ク、一々列擧スルノ煩ニ堪ヘス、依テ其ノ最  
モ重ナルモノヲ左ニ掲ケ、予ノ見解ノ據立スル所ヲ明ニス。

福田博士

一 『經濟單位ノ發展ニ關スル舊說ト新說(改定經濟學研  
究』(覽卷收録)

二 『露西亞ノ文化ノ使命トシレ一チノ近業』(同)

三 『ゾアドルガ』(同)

四 『家族共産體』(同)

**Kowalewsky**, *Modern Customs and Ancient Laws of*  
*Russia*. London 1891.

**Lutschizky**, "Zur Geschichte der Grundeigentumsfor-  
men in Kleinrussland," im Jahrbuch für Gesetzg., Ve-  
rw. und Volksw. im Deutschen Reich, Bd. XX, 1896.

**Simkhowitsch**:

1—Die Feldgemeinschaft in Russland. Jena 1898.

2—Art. „Die Bauernbefreiung in Russland," in Con-  
rads Handw. der Staatsw., 3te Aufl., Bd. II.

3—Art. "Mir," eberda, Bd. VII.

4—"Die szialökonomischen Lehren der russischen  
Narodniki," in Conrads Jahrb. für Nationalökonomie  
und Statistik, Bd. XIV, 1897.

5—"The Russjass peasant and Aristocracy," in Pol.  
Sci. Quarterly, Vol. XXI, 1906.

6—"Hay and History," in Pol. Sci. Quarterly, Vol.  
XXVIII, 1913.

## 第二節 一般の學說ノ意義

民族特性說ニ對スル一般の學說ノ消極的意義——

一般の學說ノ缺點——一般化ノ極端ニ馳セタリ——

——舊說ノ疲テ脱セス

予ハ前『國民經濟雜誌』一月號及ヒ二月號ニ於テめいノ印  
度村落團體說ヲ批評シ先ツ從來ノ共產的學說ニ對スル懷疑的立  
論地ヲ明カニシタルヲ以テ、進ンテ露西亞村落團體ニ關スル  
ラうれーミールノ學說ニ到入シ、之ヲ分析批判シ依テ以テ比較研究ノ結  
論ニ對スル若干ノ疑問ヲ吐露セント欲ス。蓋シラうれーミール比較  
研究ノ完成者ニシテ、及其ノ研究ハ露西亞村落團體ノ研究ヲ以テ  
始マルカ故アリ。

らうれーミール露西亞村落團體說ハ『ミール』ヲ以

テ所謂共產の天性ヲ具有スルすらゞ民族特有ノ  
歴史の現象ナリトスル極端ナル學說ノ反動說ナ  
リ。偏狹固陋ノ國民主義的思想ヲ抱持スル愛す  
らゞ主義者及ヒ之ニ其ノ源ヲ有スル一派ノ國粹  
論者(なるどにき)ハ其ノ狹キ世界觀ノ上ニ社會  
哲學の信條ト經濟の見解トヲ樹立シ、個々人格  
ノ歷史上ニ於ケル特殊ノ意義ヲ高調スル特殊教  
義ヲ捻出シテ露西亞ノ特殊ナル歷史の發達ヲ信  
仰スルノ餘リ、『ミール』家内工業及ヒ『アルテ  
ル』ノ三ヲ以テ露西亞特有ノ現象ナリトシ其ノ  
社會政策の并ニ國家の意義ヲ力説シタリ。然レ  
トモ家内工業及ヒ『アルテル』カ國民の特性ニ出  
ツル特殊民族の現象ニ非サルハ露西亞ノ資本主  
義の發達事實ニ於テ之ヲ證明シ、又其ノ『ミール』  
制度ニ就イテモ人類ノ發展ニ規則性ト統一  
性トヲ發見セントシ又之ヲ發見シタリト信スル  
比較法制經濟史家ハ全然之ト反對ノ立場ニ立  
チ、『ミール』ヲ以テ他諸民族ノ地方團體ト同一  
視セントス。其ノ見解ニ從ヘハ、露西亞村落團體  
ノ如キ共產體ハ獨リすらゞ民族ノミニ限ラズ多

數ノ民族、即チけるまん人及ヒ古代伊太利人ノ  
間、秘露及ヒ支那、墨西哥及ヒ印度ニ、すかん  
ぢなびあ人及ヒあらびあ人ノ間ニ全然同一ノ形  
態ヲ取ツテ現ハレタルコト疑フ可カラス、社會  
發展上ノ必然の階級及ヒ土地所有形式變遷ノ裡  
ニ存スル一種ノ宇宙法此ノ間ニ窺知セラル可シ  
ト。蓋シ比較法制經濟史の研究ハ、法律カ人間意  
志ノ任意ノ所産ニ非スシテ一面一定ノ經濟の欲  
望ノ成果タリ他面道德の宗教の感情ヨリ發スル  
一定ノ正義ノ念ノ發露ニ因ルモノナルコトヲ前  
提シ、此等ノ欲望思想感情ハ各地相類似セルモ  
ノニシテ或ル程度ノ發達期ニ在ル社會ニ對シ同  
一作用ヲ及ボシ、從テ各地一樣ニ同種ノ制度ヲ  
喚起シ、唯タ其ノ間進歩ノ速度ノ各地民族相同  
シカラサルノ差異アルノミナリトス。故ニけー  
にひすわるたーハ人類ノ進化及ヒ文化ノ發達ノ  
行ハルルニ必要缺ク可カラサル現象ノ一タル普  
遍の習俗ヲ以テ一民族ノ特性ナリトスルノ蒙ヲ  
啓キ、まうらーノ功績ニ續イテなつせハ英吉利  
中世ノ耕地共有制度ヲ研究シテ村落團體カ一般

ニ普及セル所有權形式ナリシコトヲ闡明シ、へんりー・めいんモ亦タひまらや山麓及ヒ恒河岸ニ古代げるまん人ノ制度ニ髣髴タル制度ノ在ルヲ發見シテ共產的土地占有ノ普遍的原出現象ト看做ス可キモノナルヲ斷シ、同時ニらぐれーモ亦タ法制史社會史ノ最暗黒面即チ文明ノ原始的發展階級ニ對シ全然新タナル光明ヲ與ヘントシタリ。斯クテ比較法制經濟史の研究ハ史上隨所ニ現ハルト做ス所謂階段の發展ノ法則ヲ誘導セントシテ幾多ノ發見ヲ爲シタリト信シ、又一民族ニ就イテ其ノ制度ヲ探究シ依テ以テ他民族ニ在ツテハ既ニ久シク『時ノ闇』ノ裡ニ葬リ去ラレタル文化狀態ヲ正當ニ理解シ得可シトシ、其ノ結果民族ヲ異ニスルコトカ經濟的發展ノ上ニ何等ノ重大ナル意義ヲ有セザルコトヲ確證シ得タリト做スニ至ル。即チらぐれーハ從來特殊民族的ナリトセラレタルモノモ實ハ何レノ國民モ或ル發展階段ニ在ルトキ必ス一度ハ之ヲ見ルコトヲ得可キモノナルコトヲ唱フルナリ。予ハ今らぐれーノ世界の一般的學說及ヒ其ノ進化發展學

說ノ兩面ヲ研究スルコト能ハス、僅カニ露西亞ニ關スル其ノ進化發展學說ノ當否如何ヲ論考セントスルノミナルヲ以テ、其ノ學說カ露西亞以外ノ諸國民族ニ就イテ如何ナル程度ノ妥當性ヲ有スルヤノ廣汎ナル問題ヲ審ニスル能ハス、茲ニハ唯タ民族ノ特性ヲ以テ總テヲ說明シ盡シ又他ヲ顯ミルコトヲ知ラサリシ舊學說ニ對シ其ノ學說カ如何ナル意義ヲ有スルヤノ問題ニ觸ルルヲ得ルノミ。露西亞カ自己民族ノ特殊ノ文化的使命ヲ高調スルカ如キハ他ヲ見ルノ明ナキノ證左タリ、又其ノ社會政策上ノ特殊使用ヲ信スルニ至ラシメタル社會上經濟上ノ諸制度諸現象ノ存在スルカ如キハ偶々自國ノ低度發展階段ニ在ルヲ證明スルモノナリ。らぐれーガ廣汎ナル比較研究ニ依テ此ノ理ヲ明カニシ、特殊ノ民族ニ偏スル民族特性說カ社會進化ノ歷史ト原則トヲ無視シ其ノ餘リニ個別ノ極端ニ走リタルコトヲ說破セルハ其ノ學說ノ破壞的意義ナリト云フ可シ。然レトモ再ヒ自ラ對極ニ走ツテ極度ノ一般化ノ建設ニ急キ、民族ヲ異ニスルコトカ經濟生

活ノ上ニ如何ナル意味ヲ有スルヤヲ問ハズ所  
謂『進化論ノ中毒』ヲ受クルニ至リシハ其ノ一般  
進化説ノ建設の方面ヲ甚ダ危クスルニ至レリ。  
即チラズレハ村落團體ノ制度ハすら今民族ノ  
間ニけるまん人ノ間ニ又古代諸民族ノ間ニ亞米  
利加支那・印度・ジャバニ、要スルニ遊牧ヨリ農耕  
ヘノ過渡期ニ在ル凡ユル民族ヲ通シテ之ヲ見ル  
モノナルコトヲ理由トシ、『村落團體ノ共同所有  
ノ原則カ露西亞在ツテ以來存在セシモノナルコ  
ト他ノ諸國ニ於ケルト同シ』『原始所有權』二六一  
七頁（原書二五頁）ト  
シテ遂ニ露西亞村落團體カ他民族ノ制度ト毫モ  
異ナルナキヲ高調スルニ至ル。否單ニ之ニ止マ  
ルニ非ス、ラズレハ唯タ僅カニ舊民族特性説  
ヲ一般化セント企テタルニ過キスシテ原始共有  
體トシテノ『ミール』ノ存在ヲ認ムルコト舊説ト  
何等選フ所ナキノ缺點ヲモ有セサルカ。以下其  
ノ所有權進化説ノ當否ヲ檢察批判セント欲ス。